

岩手町

| 要望月日 | 要望内容 | 取組状況(方針) | 振興局名 | 担当所属名 | 反映区分 |
|-------|--|--|---------|-------------|------|
| 8月19日 | <p>【1 主要地方道岩手平舘線における歩行者の安全確保について】</p> <p>本町の中心市街地・沼宮内地区を縦貫する主要地方道岩手平舘線は、沿線に商店、住宅、小学校、病院等が密集し、いわて沼宮内駅に至る幹線道路であることから通勤、通学、通院、買い物等日常生活に密着した路線として利用されています。このうち新町地区から大町地区については、街路整備事業により安全な歩行空間が確保され、さらに平成26年度以降においては学校関係者、警察及び道路管理者で実施する「通学路緊急合同点検」において要対策箇所に位置付けられ、道路側溝の入れ替えや側溝蓋の調整により歩行者や自転車の通行の妨げとなっていた段差解消のほか、グリーンベルトによる歩行帯の明示により歩行環境の改善を図っていただきました。</p> <p>しかしながら、歩道が未整備であったり、見通しが不良な箇所もあり、安心安全な通行にはなお改善の余地があります。また、全国的にも登下校中の児童が犠牲となる交通事故が後をたたく、過去に同路線の野口町地区で小学生の死亡事故が発生した事を鑑みますと、歩行者等の安全確保には十分とはいえない状況にあります。また、駅から野口町地区へと続く東側歩道は、IGR跨線橋の手前でなくなります。横断歩道はなく、併せて交差点部でもあり、とても危険な状況となっております。</p> <p>つきましては、児童生徒をはじめとした歩行者が安心して利用できる歩行空間の確保、また見通しの利かないカーブの解消など、未改善となっている区間、箇所の改良を強く要望します。</p> | <p>主要地方道岩手平舘線（都市計画道路犬袋新町線及び新町城山線）の御要望の区間の事業化については、早期の整備は難しい状況ですが、今後の交通量の推移や公共事業予算の動向等を見極めながら判断していきます。（C）</p> <p>また、令和4年度は、いわて沼宮内駅から野口町地区において、注意喚起のための標識を設置しました。</p> <p>歩道整備については、県内各地から多くの要望があり、必要性、緊急性等を考慮しながら整備を進めており、要望の区間については、早期の整備は難しい状況ですが、交通量の推移や公共事業予算の動向等を見極めながら総合的に判断していきます。（C）</p> | 盛岡広域振興局 | 土木部岩手土木センター | C：2 |

岩手町

| 要望月日 | 要望内容 | 取組状況(方針) | 振興局名 | 担当所属名 | 反映区分 |
|-------|---|--|-------------|---------------------|-------|
| 8月19日 | <p>【2 救急医療体制を支える国道281号の整備について】</p> <p>国道281号を利用している岩手町及び葛巻町は、救急医療体制の構築が課題となっており、効率的に機能させる道路ネットワークの整備が必要となっています。特に救急医療の中核を担う岩手医科大学附属病院が矢巾町に移転したことから、盛岡広域圏北部においては救急搬送時間の増大が懸念されています。つきましては、当該地域における救急医療機関への搬送時間の短縮を図るため、国道281号岩手町・葛巻町間の地域高規格道路並みの抜本的改良整備を強く要望します。</p> | <p>令和3年6月に策定した「岩手県新広域道路交通計画」では、国道281号を「一般広域道路」として位置付け、さらに、これに重ねる形で「(仮称)久慈内陸道路」を将来的に高規格道路としての役割を期待する「構想路線」として位置付けました。</p> <p>こうしたことから、国道281号については、将来的な高規格道路化を見据えた規格により、必要性の高い区間から順次整備を進めていきます。(C)</p> | 盛岡広域 振興局 | 土木部岩手 土木セン ター | C : 1 |

岩手町

| 要望月日 | 要望内容 | 取組状況(方針) | 振興局名 | 担当所属名 | 反映区分 |
|-------|--|---|---------|-------------|------|
| 8月19日 | <p>【3 北岩手・北三陸横断道路の整備促進について】</p> <p>現在、県都盛岡市以北において、内陸部の国道4号沿線から三陸沿岸北部を結ぶ路線は、国道281号などがありますが、線形不良や隘路区間のほか、急勾配・急カーブが連続する山間部を縫うように走る道路網で交通の難所であり、移動に多くの時間を要する状況にあります。</p> <p>地方創生の取り組みで産地間の競争が進む中、盛岡市以北の市町村には、農林水産物など魅力ある地域資源が数多くあるにも関わらず、農山漁村と都市部を繋ぐ社会基盤の整備の遅れが流通や交流人口の拡大に大きな影響を与えています。また、岩手県全体を俯瞰したとき、県南地域の道路網との格差拡大が、地域経済はもとより、人口減少にも深刻な影響を与えております。</p> <p>さらに、観光や災害対策などの面でも、広い県土や北東北の日本海沿岸と太平洋沿岸が結ばれることは、地域間の連携が加速し、多分野において複合的な効果が生まれるものと期待されるところであります。</p> <p>つきましては、昨年度策定された北岩手・北三陸を横断する（仮称）久慈内陸道路の整備に向け、早急に調査に着手いただくとともに、高規格道路として整備されるよう強く要望します。</p> | <p>令和3年6月に策定した「岩手県新広域道路交通計画」の中で、国道281号を一般広域道路に、さらに、これに重ねる形で「（仮称）久慈内陸道路」を将来的に高規格道路としての役割を期待する構想路線に位置付けました。</p> <p>こうしたことから、国道281号については、将来的な高規格道路化を見据えた規格により、トンネル等による整備を順次進めているところであり、引き続き、令和2年度に事業化した久慈市「案内～戸呂町口工区」の整備推進に努めていきます。</p> <p>また、久慈内陸道路については、路線全体の整備の考え方やおおまかなルートの検討状況などについて、沿線の市町村と丁寧に意見交換しながら調査を進めていきます。</p> <p>今後とも、国道281号を規格の高い道路として、着実に整備を進めるとともに、久慈内陸道路の調査の熟度を高めていきます。（C）</p> | 盛岡広域振興局 | 土木部岩手土木センター | C：1 |

岩手町

| 要望月日 | 要望内容 | 取組状況(方針) | 振興局名 | 担当所属名 | 反映区分 |
|-------|--|--|-------------|-------|------|
| 8月19日 | <p>【4 県立中央病院附属沼宮内地域診療センターの医療体制の継続について】</p> <p>岩手県におかれましては、慢性的かつ危機的な医師不足の中、医師や看護師の確保、奨学金養成医師の地域配置などの取り組みとともに、県立中央病院などからの応援により県立中央病院附属沼宮内地域診療センターの診療体制を確保いただいております。</p> <p>本町の医療の中心を担う地域診療センターは、長年にわたり地域医療の拠点として、多大な貢献を果たしており、他の診療センターと比較しても高い水準で対応いただいていることに感謝を申し上げます。</p> <p>本町のような中山間地域では、医療資源等に限りがあり、市町村域を越えた連携体制の更なる強化と役割分担が必要と考えております。</p> <p>現在、町内に設置したプロジェクトチームにおいて、調査・研究を重ねており、限られた医療資源を最大限に活用し、地域診療センターを核に、近隣市町まで含めた医療介護施設等と広域での連携体制を構築できるように取り組んで参ります。</p> <p>つきましては、今後も様々な助言指導等をいただきながら、現在の職員配置を含めた地域診療センターの診療体制を維持いただきつつ、地域の医療体制充実についてご配慮賜りますようお願い申し上げます。</p> | <p>沼宮内地域診療センターについては、「岩手県立病院等の経営計画〔2019-2024〕」において定めている機能・役割を果たしていくため、常勤医の配置や応援診療等により医療提供体制の確保に努めているところであり、今後においても、地域の医療ニーズを踏まえた医療提供体制の維持に努めていきます。（A）</p> | 盛岡広域 振興局 | 経営企画部 | A：1 |

岩手町

| 要望月日 | 要望内容 | 取組状況(方針) | 振興局名 | 担当所属名 | 反映区分 |
|-------|--|---|-------------|-------|------|
| 8月19日 | <p>【5 地域公共交通の維持と再編について】</p> <p>本町における路線バス及び鉄道等の公共交通機関につきましては、人口減少などにより利用者が減少傾向にあり、昨年来の新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、さらに厳しい状況となっております。さらに、アフターコロナにおいても住民の行動変容等により従前の利用水準に回復できないことが懸念されます。少子高齢化が進む地域社会における公共交通の確保は、住民の生活に欠くことのできない大きな行政課題の一つでもあることから、その担い手である地域交通事業者に対する各種補助事業等の充実が図られるよう、要望します。</p> <p>本町では、昨年度、新たな「地域公共交通計画（2022-2026）」を策定しました。本町のコミュニティ交通である「あいあいバス」及び「あいあいタクシー」については、利用者の固定化が見受けられますが、潜在的な需要などを見極めながら、既存の広域路線バスの運行形態とも併せて見直しを検討して参ります。また、高齢化等の進展を背景にグリーンスローモビリティやバス定額制度の導入も検討して参ります。</p> <p>つきましては、将来にわたり「住み慣れた地域で安心して暮らすことができる移動と交流を促進する交通ネットワーク」の実現を図るため、計画の評価・改善にあたり県関係各位の御指導、御協力を賜りますようお願いいたします。</p> | <p>県では、令和2、3年度において、乗合バス事業者が、新型コロナウイルス感染症の影響を受けている中でも安全かつ安定した運行が維持できるよう、運行支援交付金の交付により支援を行ったところであり、令和4年度においても、同様の交付金や、燃料費の高騰の影響を踏まえた緊急対策交付金の交付を行ったところです。</p> <p>併せて、国庫・県単補助路線について、補助要件の緩和や減額調整の適用除外を行うとともに、国に対しても、公共交通事業者が持続的な運行を確保できるよう、財政支援や国庫補助の補助要件等の緩和などを要望しているところです。（B）</p> <p>また、市町村の計画の評価・改善等については、市町村からの要請に応じ、計画策定・見直しや地域公共交通の再編等について助言を行う有識者の派遣などを行う取組により技術的支援を行っているところです。</p> <p>今後も引き続き、市町村が地域の実情に応じた地域内公共交通の維持・確保が図られるよう、必要な支援を行っていきます。（B）</p> | 盛岡広域 振興局 | 経営企画部 | B：2 |

岩手町

| 要望月日 | 要望内容 | 取組状況(方針) | 振興局名 | 担当所属名 | 反映区分 |
|-------|--|--|---------|-------|-------|
| 8月19日 | <p>【6 持続可能な森林経営と地域林業の再生につながる森林整備への支援強化（予算確保）について】</p> <p>戦後造成された人工林の過半が本格的な利用期を迎え、さらに新型コロナウイルス感染症の影響に起因するウッドショックによる木材価格の高騰により、立木伐採及び利用が急速に進み、木材生産量は増加傾向にあります。</p> <p>しかしながら、本町においては、森林所有者の高齢化や後継者不足、若者を中心とした森林所有者の林業経営に関する理解の低迷、さらには森林管理に対する意欲の減退傾向などの課題を抱えている状況にあります。このようなことから、人工林伐採跡地における早期の再造林やその後の森林施業が行われず、人工林における木材生産力の回復や森林の持つ国土保全、水源涵養などの多面的機能の維持が困難となっております。</p> <p>特に、持続可能な森林経営に不可欠な再造林からの保育については、森林所有者にとって最も費用負担が発生する施業であります。森林所有者への支援を継続、拡充することは、森林の適正管理を促進させ、森林による二酸化炭素吸収量の確保・強化につながってまいります。</p> <p>こうした状況を踏まえ、持続可能な森林経営と森林の持つ環境保全能力の維持、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で疲弊した地域経済の再生につなげるため、民有林に対する森林整備事業（公共）での支援が確実に行われるよう、十分な国庫予算の確保要望と県負担分予算の確保を講じられるよう要望します。</p> | <p>将来に向けて安定した森林資源を確保していくためには、造林コストの低減を図りながら、着実に再造林等の森林整備を進めていくことが重要と考えています。</p> <p>県では、森林整備事業等を活用し、伐採から再造林までの作業を連続して行う一貫作業システムや低密度植栽を普及し、低コストな再造林を促進するとともに、令和3年度から、いわての森林づくり県民税を活用し、伐採跡地への植栽等を支援しています。</p> <p>また、令和4年6月には、再造林等の計画的な森林整備や路網の整備の一層の促進を図られるよう、国に対し、森林整備事業等に必要な予算を十分に措置するよう要望を行ったところです。</p> <p>今後も、引き続き持続可能な森林経営の実現に不可欠な再造林等を一層促進していくため必要な予算を十分確保するよう努めていきます。</p> <p>(B)</p> | 盛岡広域振興局 | 林務部 | B : 1 |

岩手町

| 要望月日 | 要望内容 | 取組状況(方針) | 振興局名 | 担当所属名 | 反映区分 |
|-------|---|--|---------|-------|-------|
| 8月19日 | <p>【7 肥料高騰等に関する対策について】</p> <p>ウクライナ危機及び新型コロナウイルス感染症の影響により、肥料を始めとした農業資機材の価格高騰は長期化、深刻化し、生産農家は農業経営に大きな影響を受けているところだ。</p> <p>特に肥料については、輸入原料に加え輸送コストも高騰しており、秋肥用肥料価格は最大で30%超、平均で11%程の急騰が見込まれております。このような中で、生産を続けなければ続けるほど赤字がかさみ、生産農家にとっては既に自助努力の範囲を超えている状況にあります。</p> <p>これに対し、新聞報道によると国では既に高騰対策として支援金の創設を表明しており、都道府県においても、半数を超える自治体が独自に支援策を講じております。</p> <p>岩手県内においては、広大な農地や各地域の立地特性などを生かした多彩な農業が展開され、我が国の食料供給基地の役割を担っております。こうした状況を踏まえ、持続可能な農業経営と健全な農地を維持し、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で疲弊した地域経済の再生につながるよう、岩手県においても、飼料と燃油のみならず、肥料についても特段の支援措置を講じられるよう要望します。</p> | <p>国の農業物価統計調査によれば、令和4年11月の肥料価格は、窒素、りん酸、カリを配合した高度化成で、前年同月に比べ33%上昇し、農家は農業経営に大きな影響を受けていると認識しています。</p> <p>こうした状況の中、県では、国に対し、肥料価格の安定化に資する事業の創設を要望し、国では、令和4年度コロナ対策予備費で、肥料価格上昇分の7割を農業者へ支援する事業や、令和4年度補正予算で、化学肥料原料を民間業者が備蓄することを支援する事業を創設したところです。</p> <p>また、県独自の支援策として、令和4年度9月補正予算で、肥料コストの低減等に資する機械設備の導入経費を支援する「肥料価格高騰緊急総合対策事業費」を、令和4年度12月補正予算で、国の「肥料価格高騰対策事業」と併せ、肥料コスト上昇分の10%を、県独自に上乗せして支援する「肥料価格高騰緊急対策費補助」を措置したところです。</p> <p>さらに、「肥料コスト低減技術マニュアル」を活用し、土壌診断に基づく適正施肥や、化学肥料の使用量を低減できる堆肥の利用について指導しています。(A)</p> | 盛岡広域振興局 | 農政部 | A : 1 |

岩手町

| 要望月日 | 要望内容 | 取組状況(方針) | 振興局名 | 担当所属名 | 反映区分 |
|-------|---|--|------|---------|-------|
| 8月19日 | <p>【8 県立沼宮内高等学校の学級数の維持について】</p> <p>令和3年5月に策定した「新たな県立高校再編計画後期計画」では、盛岡一極集中の是正を図り、県内全体のバランスを考慮した適切な学校・学科の配置を行うため、計画において示した統合対象校以外の高校については、計画的な統合や学級減等を行わず、1学級校も可能な限り維持するとあります。</p> <p>今後、少子化の進行に伴い生徒数の減少が想定されますが、県立高等学校は、地域の担い手人材の育成の役割が期待されております。</p> <p>そこで、本町と県立沼宮内高等学校は、令和4年3月に「持続可能なまちづくりの実現に向けた地域共創人材の推進に関する連携協定」を締結し、地域と共に地域の課題研究を実施するなど、相互に連携・協力して、地域の担い手となる人材を育成していくこととしました。そのため、本町の持続可能な地域づくりには、県立沼宮内高等学校は欠かせない存在であると考えます。</p> <p>このほかにも、公営塾や県外からの生徒募集など、県立沼宮内高等学校の魅力化のため、町と高校が連携した取り組みを進めているところであり、これらは「いわての高校教育」が目指す地域連携の取り組みと考えます。</p> <p>また、後期計画では、盛岡ブロックの盛岡南高等学校と不来方高等学校の統合が予定され、統合後は200人の定員減となりますが、この定員減による生徒の志望動向の変化も想定されるため、後期計画後の影響を検証したうえで新たな再編を検討するべきと考えます。</p> <p>よって、後期計画の期間中は、岩手県立高等学校の管理運営に関する規則による入学者数の減少による学級減や募集停止を行わず、現在の学級数を維持し、地域の高校教育体制の確保に資するよう要望します。</p> | <p>貴町の沼宮内高校への部活動補助をはじめ、生徒への各種支援等の取組に対し、感謝申し上げます。</p> <p>令和3年5月に策定した「新たな県立高等学校再編計画後期計画」では、教育の質の保証と機会の保障に加え、「生徒の希望する進路の実現」と「地域や地域産業を担う人づくり」を基本的な考え方としています。</p> <p>また、地域や産業界と高校のかかわりが深まっていることや、生徒の進路実現に向けた高校教育充実への期待が高まっていること等の現状を踏まえ、後期計画期間中において、各地域の学校をできる限り維持することとしています。なお、欠員の状況等に応じて「岩手県立高等学校の管理運営に関する規則」に基づく学級減を検討することとしており、沼宮内高校については、欠員の状況や町内中学校卒業予定者数の状況等を踏まえ、令和5年度に1学級を減ずることとしました。</p> <p>他方、県教育委員会では、令和2年度からの「高校の魅力化促進事業」を拡充・発展させ、令和4年度からは国庫を活用した「いわて高校魅力化・ふるさと創生推進事業」に取り組んでおり、同事業における魅力化プロデューサー等による学校訪問等により、沼宮内高校の魅力化の取組を支援していくこととしています。</p> <p>今後とも、地域と連携しながら、生徒の多様な進路希望の実現や地域人材の育成等に対応した教育環境の整備・充実に取り組んでいきます。(C)</p> | — | 盛岡教育事務所 | C : 1 |